



地方独立行政法人
那覇市立病院

梯 きざはし

2022.1
Vol.

34

新年の挨拶
眼科紹介

新年の挨拶



理事長兼病院長 外間 浩

みなさん、新年明けましておめでとございます。旧年中はお世話になりました。今年もよろしくお願い申し上げます。

しかし、今年もまた去年に続き、コロナ禍の中の新年を迎えました。一昨年はじまったコロナ禍で、収束の兆しが見えない中でスタートになりましたが、全職員めげることなく一丸となって頑張っています。

これも地域の先生方、地域の住民の方々の支えがあつてこそです。昨年地域住民、会社の方々から応援の物資や労いの言葉、祈りを込めた絵画、折り鶴等たくさんの応援をいただきました。本当に、ありがとうございました。

さて、新病院建築に向けて今年立体駐車場が完成しました。いよいよ今年2022年春には本館の工事が始まりです。当院は地域支援病院、教育病院として今後も地域の皆様の医療を支えるために、安心、安全な医療を持続的に提供できることを目標に頑張っていきたいと思っております。

この那覇市立病院は復帰後8年の1980年5月、当時の平良良松那覇市長の要請で、田端辰夫初代院長の下に開設されました。その当時は医師、病院が不足し、市民や県民が十分な医療サービスを受けない時代でした。設立当時は診療科14科、一般病床295床で県立病院を除いては県内唯一の市立病院として開設されました。当時の田端院長が「自治体病院としての使命は患者中心のより良い医療サー

ビスの提供に尽きます。」と述べられています。その使命感で職員一丸となってこの病院を那覇市における地域医療の中心として発展させ、その後、伝染病床を含めると500床まで増床し、その後の宮城靖院長、内間壮六院長、與儀實津夫院長（初代独立行政法人理事長）、照喜名重一理事長、屋良朝雄理事長までに近代的な病院機能の整備を進めICU、NICUの設置をはじめ高度医療機器の導入、24時間365日の救急医療を行うなど、現在まで地域の中核病院として地域医療に貢献してきました。

10周年記念誌の中で田端院長は「これまでの実績をふまえて、絶えず反省を重ねながら、新しい医学、医療の進歩にも遅れることなく、市民に信頼されるより良い病院を目指して全職員が力を合わせて頑張ります。」と述べられております。この言葉は今も変わらずに心に響きます。那覇市立病院の使命は変わらずに現在もあることを実感させられます。今後も肝に命じていきたいと思っています。

そして現在では、職員数は1000名を超え、医師数も倍増し更なる高度医療の提



～飛躍のためのビジョン～

働きやすい、学びやすい職場
 お互いに敬意を払える職場
 ずっと働き続けたいくなる職場
 そして、選ばれる病院、夢のある病院、
 やりがいのある病院

供ができるようになってきました。2025年10月には新病院開院に向けてさらなる飛躍を目指したいと思っています。その飛躍のためのビジョンを掲げました。このビジョンに向けて職員一人ひとりがベクトルを一つにしなければいけなくてはと思っています。

今、日本の社会ではこれまでの戦後、昭和、平成までの仕事一筋の働き方から働き手を大事にするための働き方改革が叫ばれています。現在のコロナ禍の中では特に患者中心の医療はもとより、職員に寄り添うことも大事だと思っています。職員が楽しく仕事をして、生きがいを持ってでき

なくては患者さんの前で笑顔も見せられませんし、病気もよくなりません。職員が笑顔で仕事ができるようにするには、職員のみなさんを幸せにすることがまず第一歩だと思っています。そんなことから始めたいと思っています。より良い病院を地域のみなさんと職員みなさんと共に作って行きたいです。

そして、地域住民のために、地域住民を泣かすことがないよう、地域の先生方と共に強固な地域連携を進め、安心で安全な医療を提供していきたい、この地域を守っていきたいと思っています。今年もご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

理念 **和と奉仕**

Mission
使命

Vision
市立病院のあるべき姿

Value
行動指針

和と奉仕
地方独立行政法人
那覇市立病院

地域住民を守る

働きやすさ、学びやすさ

心がける姿勢

- ◆ 患者中心の医療
- ◆ お互いに敬意を払える職場
- ◆ ずっと働き続けたいくなる職場

取るべき行動

- ◆ 地域連携を大事にすること
- ◆ 経営の視点を持つこと
- ◆ 人材教育 など

(今後順次追加予定)



副院長兼診療部長・
健診センター長

新垣 均

新年明けましておめでとうございます。

令和 4 年は新型コロナウイルスのオミクロン株の猛威で明けました。皆様も感染対策には気をつけていると思いますが、コロナの影響で診療制限もあり健診受診者も減っています。病気や癌はコロナと関係なく私たちに迫ってきます。コロナが治まったら生活習慣病や癌患者が増えていたという事にならないよう、自身の健康管理に留意して過ごして頂きたいと思います。

那覇市立病院は今年から新病院の本体工事が始まります。敷地内での建替えですので、病院利用者にはご迷惑を掛けることもあるかと思いますが、令和 7 年の完成を目指し希望に溢れた 1 年になる事を期待しています。



副院長兼看護部長

藤本 みゆき

あけましておめでとうございます。

皆さまにおかれましては、健やかに新春をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。

昨年は新型コロナウイルス感染症への対応に迫られ病床編成や急患受け入れなど沖縄県コロナ対策本部や那覇市保健所と協働しながら職員一丸となって診療を進めて参りました。病院運営においてご協力いただきました地域の皆様に心より感謝申し上げます。

2022 年もさまざまな取り組みを通し地域に根ざした中核病院として皆さまに信頼され安心していただける医療・看護の質の向上に向けて一層努力してまいります。

今年一年が皆さまにとりまして幸せで実り多い年となりますようにお祈り申し上げます。本年もよろしくお願い致します。



副院長兼医療技術部長

宮田 裕史

2022 年の新年もコロナ感染の第 6 波と迎えることとなりました。

皆様も、いろいろな制限が続く中での生活にご苦労が多いことでしょう。我々も、日常の医療が制限され、コロナ感染症対策に追われる日々が続いています。コロナ感染症以外の疾患の患者様が、受診控えとなっていないかと心配しております。

市立病院は、地域医療支援病院として、近隣のかかりつけ医の先生方と連携をとっておりますので、かかりつけ医の先生方からの紹介は断らず診療いたしております。また、新病院建て替えに向けて、現在工事が進行しており、12 月には、駐車場が整備出来、本年 4 月からは、本体建築に向けた工事も本格化していきます。皆様には、診療と工事の同時進行ということで、色々にご迷惑をお掛けすることになりますが、ご協力を得ながら日々の診療を行っていきます。

新病院建築という目標と市民の皆様から信頼される病院を目指して頑張っていますので、本年もよろしくお願い致します。

新年の挨拶



副院長兼医療支援部長・
急病センター長

豊見山 直樹

世界が COVID-19 という災害に巻き込まれて 3 回目の新年が明けました。今春、短期間で世界的に蔓延したオミクロン株という変異ウイルス。沖縄の小さな島のおばあさんと南アフリカの少女、北欧の中年男、なんの接点もないように見える人々が、これだけ短期間のうちに同じ感染症にかかる。この不思議な現象を私自身はいまだに肌感覚で理解納得することができていません。20 世紀末から今世紀初頭に急激に進んだグローバル化とインターネットの爆発的な普及が、相互して確実に世界中の人々の間にリンクを作ったという証でしょうか。

アフリカの平原に生まれ、至る所で独自に発展してきたヒトとヒトは、隣同士で争うこともありながらも“つながる”ことを求めて社会を広げながらその生息域を極寒の極地から熱帯まで広げてきました。

この四半世紀の流れで見ると、病院事業もまさに単独の施設では完結できないことがわかり、施設間での機能分化と強力な連携が推進されてきました。コロナ禍に後退しそうになりながらも、私たちは皆様と一緒に、“つながる”、“つなげる”医療を促進して地域の皆様の健康を守り、医療の質の向上に寄与していければと考えています。今年もよろしくお願い申し上げます。



副院長兼地域医療連携室・
がん診療連携室 室長

宮里 浩

2022 年の幕開けを迎えました。新型コロナへの対応も 3 年目に突入し、皆様それぞれの立場でご苦勞をされているかと思えます。

当院も、患者、家族の皆様、地域の医療関係者、消防関係者には大変なご不便をお掛けしながら何とか地域の医療を継続することができました。皆様には深くお礼申し上げます。

また、職員の協力のもと、通院患者のワクチン個別接種、地域の医療関係者、消防関係者のワクチン接種、那覇市民のワクチン集団接種、陽性者療養ホテルの健康観察業務など多くの診療外業務を担うことができました。

もうしばらく、新型コロナに対応しながらの活動となりそうです。(この原稿執筆時、オミクロン株による第 6 波が押し寄せようとしております)

この 2 年間で培ったノウハウで、地域医療機関との連携を進め、このような状況においても患者、ご家族に満足していただけるようなより良い医療を提供できるよう活動して参ります。また、感染状況も観ながら、なるべく対面での意見交換の場も設けて行きたいと考えております。その際は、是非ご協力の程宜しくお願い致します。

今後も外間理事長を中心とした地域の中核病院としての活動に、微力ながらも貢献できるよう尽力致します。

本年度も何卒よろしくお願い致します。

眼科紹介



眼科 大山 泰司

■ 専門／涙道・眼形成 ■ 座右の銘／常に謙虚に

はじめまして。2021年4月に那覇市立病院眼科に赴任致しました大山泰司と申します。

今回、約5年ぶりとなる那覇市立病院の定期刊行誌「梯(きざはし)」発刊に際し、眼科にお声かけ頂きました。折角ですので、僕の専門分野である**眼形成**を中心に、当院眼科について紹介させていただきます。

那覇市立病院眼科は2017年3月より常勤医不在のため休診となっていました。昨年4月より診療を再開しております。

現在常勤医1名、視能訓練士1名体制で診療を行っています。必要に応じて、未熟児網膜症の治療必要時には網膜硝子体専門医を、月1回程度は眼形成専門の医師を招くなど外部と連携しながら診療を行っています。

週3コマある外来では眼科一般診療と平行して、眼形成疾患の診療も行います。

一般診療では白内障手術への対応が中心で、入院管理を必要とするような全身合併症を有する患者さんや進行した症例を紹介頂いています。白内障手術は原則2泊3日の入院手術のみで対応しており、基礎疾患によっては全身麻酔での手術も行います。また、他科で加療中の方の眼科定期診察なども行っています。



眼形成外来では、眼周囲の付属器疾患を専門に治療を行います。

眼形成外来では、眼瞼(まぶた)や眼窩(眼のまわりの骨に囲まれた部分)、涙道(涙の通り道)など眼の周りを対象とした治療を行います。眼形成は海外では半世紀以上前から認知されていますが、日本ではまだまだ知名度は高くありません。

ここ最近、諸先輩方の努力のおかげで全国的には専門治療を受けられる施設が増えてきましたが、県内の眼科では**那覇市立病院が初めての開設となります。**



外来診療の様子

実はこれまで琉球大学眼科には眼形成を専門とする医師が不在でした。そんな折、2017年に琉球大学眼科教授に就任されました古泉英貴先生からの縁によって京都府立医科大学眼科で眼形成について勉強する機会を与えて頂きました。今では、京都で得た知識と技術、経験が僕の眼形成診療の基礎となっています。

眼形成の主な対象疾患

眼瞼

眼瞼下垂、
内反症(さかまつげ)、
外反症、眼瞼腫瘍など

眼窩

眼窩骨折、甲状腺眼症
や特発性眼窩炎症など
炎症性疾患、眼窩腫
瘍など

涙道

流涙または眼脂を伴
う涙道閉塞症、急性涙
嚢炎、先天性鼻涙管閉
塞症など

その他

眼瞼裂傷、涙小管断裂、
眼窩膿瘍など

いずれも小児から大人まで受け
入れ可能で、保険診療での治療を行
います。
小児の手術の場合は麻酔科医の
協力のもと全身麻酔で手術を行っ
ています。

眼瞼腫瘍はものもらいとの区別
が難しい悪性のもがあります。こ
れまで悪性が疑われた場合には形
成外科や皮膚科など他科へ治療を
お願いすることが多く、紹介をする
のに多少のハードルがありました。

しかし、これからは眼科医同士で
垣根の無い紹介が出来るようにな
り、早期治療が可能となります。悪
性であった場合には広範囲の切除
を必要とすることが多く、切除した
部分へ硬口蓋という口の粘膜を移

植したり、残ったまぶたから一部組
織を移植したりと眼科での再建も
行っています。
外傷による眼窩骨折では全身麻
酔下での修復術を行います。手術の
際に骨折部分の被覆には主に人工
骨を用いており、人工骨

加齢による下眼瞼内反症(さかまつげ)術前後



術前



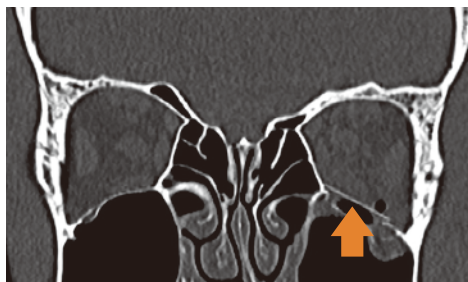
術後

眼窩底骨折(開放型)術前後



術前CT

左側の眼窩底骨折(開放型)
骨折部から眼窩内組織が鼻腔側へ
落ち込んでいる

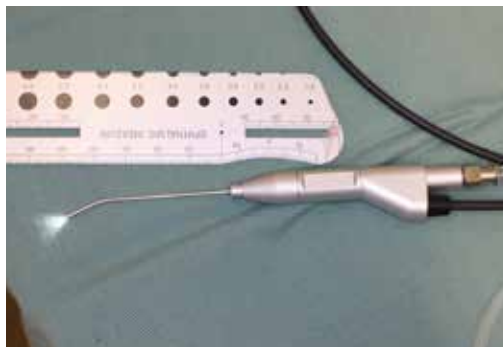


術後CT

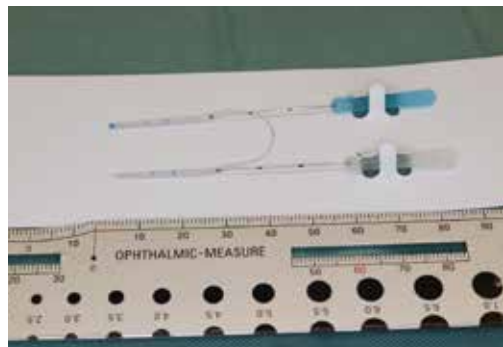
脱出組織を眼窩内へ整復し、骨折部
は人工骨(スーパーフィクスープ®)
を用いて再建している少量の出血
がみられるが、整復は良好である

眼窩腫瘍の場合には症
例によって脳神経外科に
開頭手術をお願いするこ
ともありますが、可能な
限り当科で前方からアプ
ローチすることで負担が
少なく、術後の回復が早
い治療が出来るよう症例
に応じた適切な選択を心
掛けています。
4月に眼科外来を再開
して以来、よく紹介を受
ける内容として「涙道」と

呼ばれる涙の通り道に関する治療があります。涙道に閉塞が生じ、自然と涙があふれたり眼脂が増えるなどの症状がある場合、成人であれば涙道内視鏡と呼ばれる約1mmの非常に細いカメラによって涙道



涙道内視鏡（太さ約1mmの非常に細いカメラ）



涙道内視鏡を使用し、シリコンチューブを挿入する

内の観察を行います。治療適応があれば、涙道へのシリコンチューブ挿入による治療を行います。遠方からお越しの方などは、来院当日にそのまま外来でチューブ挿入を行うことも可能です。



手術風景 涙道内視鏡



チューブ挿入後は2〜3ヶ月後に抜去を行います。また詰まってしまうような難症例や急性の炎症（急性涙嚢炎）を生じている場合などは、涙嚢鼻腔吻合術（DCR）と呼ばれる涙道から鼻へのバイパスを



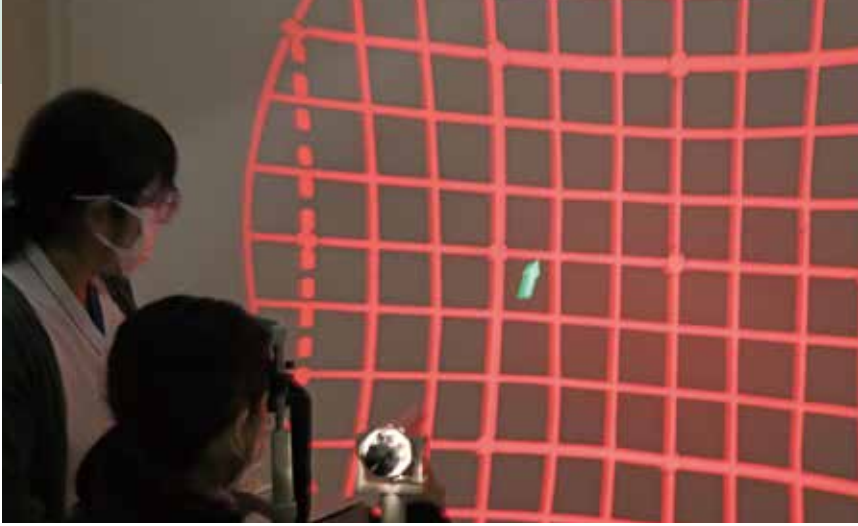
手術風景 DCR 鼻内法 鼻内視鏡を用いて手術を行っている

眼と接する部分の治療には視機能の評価が必要だからです。かつて、今のように各分野で専門化が進む前の眼科の先生方は眼窩骨折やDCR含め様々な手術を行っていました。

なぜ眼科医が行うのか

作成する手術を全身麻酔下に行うことがあります。DCRは大きく分けて皮膚を切開する鼻外法と鼻からのアプローチによる鼻内法に分けられます。当科では術後に表面から傷が見えない鼻内法を積極的に選択している点も特徴の一つです。

また、生まれつき涙があふれる先天性鼻涙管閉塞症に対しては1〜2歳までに自然軽快しない場合に全身麻酔下で涙道内視鏡を用いたチューブ挿入を行います。



ヘスチャート試験（視能訓練士による複視の検査）

しかし最近では各分野で専門性が高まるとともに細分化が進み、県内の眼科では眼球については非常に高水準の治療が可能となりましたが、まぶたや眼窩疾患についてはあまり手がまわらなくなっていました。本来であれば、眼に接する組織の治療適応や効果判定のためには眼科医の関与が重要です。

たとえば内反症（さかまつげ）では、眼表面の傷をみたり視力検査が手術適応の判断材料となります。眼瞼下垂では上方の視野が妨げられているのを確認するのに視野検査が有用です。また、眼窩骨折の手術適応にはCT検査はもちろん、複視（両目で見ると像がダブって見える）の有無が非常に重要で、検査は眼科で行います。当科では熟練した検査員による検査をもとに適応を判断し、治療まで一貫して行います。この点が眼科医が行う眼形成治療の一番のメリットであると考えています。

受診の予約制について

申し訳ありませんが、外来受診については一人体制のため完全予約制をとらせて頂いています。もちろん緊急疾患についてはこの限りではありません。

たとえば小児の眼外傷で嘔吐の症状がある場合には緊急手術が必要な筋絞扼型の眼窩骨折を生じているかもしれません。そんな場合でも幸い当院は救急指定病院ですので、24時間いつでも受け入れが可能です。必要があれば夜中でも手術を行うつもりですので、緊急疾患についても遠慮せずお任せください。

最後に

那覇市立病院眼形成外来は、始まったばかりでまだまだ発展途上です。一人での対応が難しいような難症例の場合には、眼形成分野の第一人者である嘉島信忠先生と手術を行うこともあります。

かつて沖縄県外に出なければ受けられなかった眼科形成診療を県内でも安心して受けられるよう、また、沖縄県の地域医療を支えていくため日々精進して参りますので、これからどうぞよろしくお願い致します。

眼科外来スタッフ

私たちにお任せください!!



那覇市立病院は、患者さんにやさしい、高精度な放射線治療を提供するため、様々な機器を導入しています。当院の放射線治療装置は2台体制となり、ますます患者さんの思いを大切にした放射線治療を提供してまいります。

放射線治療装置 Clinac 21EX (varian)

2007年より当院に導入されています放射線治療装置になります。この装置は、X線で2種類、電子線で5種類のエネルギーの選択ができます。その汎用性から、固定多門照射から強度変調放射線治療(IMRT)や定位放射線治療(ピンポイント照射)などの様々な治療に用いられてきました。今後、高精度な治療は**Halcyon(ハルシオン)**がメインになりますが、乳房照射や緩和照射などの治療を中心に引き続き使用していきます。

また、電子線を選択できるので、体表面の深さに応じて最適な線量分布が得られることから、術後乳房の腫瘍床に対するブースト(追加)照射や皮膚表面にあるケロイドなどの治療にも用いられています。



放射線治療計画 CT 装置 (兼用) Aquilion PRIME (Canon)

2021年10月からキャノンメディカルシステムズの新CT装置を導入しました。0.5mm×80列(160スライス)の検出器により、高分解能で高速に撮影できる**Aquilion PRIME(アキュイリオン プライム)**になります。この新CT装置を使うことで、息止めや手上げの時間が減り、患者さんの負担が減ります。さらに、このCT画像をもとに病巣部の位置を立体的にとらえ、どのように病巣部に放射線を集中させ、正常臓器の線量を減らしながら照射する計画を立てることができます。

また、この新CT装置では、呼吸による肺や腫瘍の動きを加えた「4次元CT」を撮影することができます。この動きの情報は、腫瘍の動きを考慮した治療計画を立てることに役立ちます。



紹介しきれなかったものの中に、高精度放射線治療を行う上で欠かせない線量検証に用いる機器も新たに導入しました。これらは、計画した線量分布が実際に計画通りに再現できているかを測定する機器になります。治療前に確認することで安心、安全な放射線治療を患者さんに提供します。

様々な新しい装置を導入しますので、患者さんやそのご家族様、医療従事者の方々に知っていただきたいとの思いで紹介してきました。特に**Halcyon(ハルシオン)**や**光学体表面監視システム(Align RT)**などは、沖縄県で初めて導入されますので、馴染みが薄かったかもしれません。そして、この当院の新しい装置を沖縄県でのがん治療の新たな選択肢の一つとして加えていただけたらと思います。

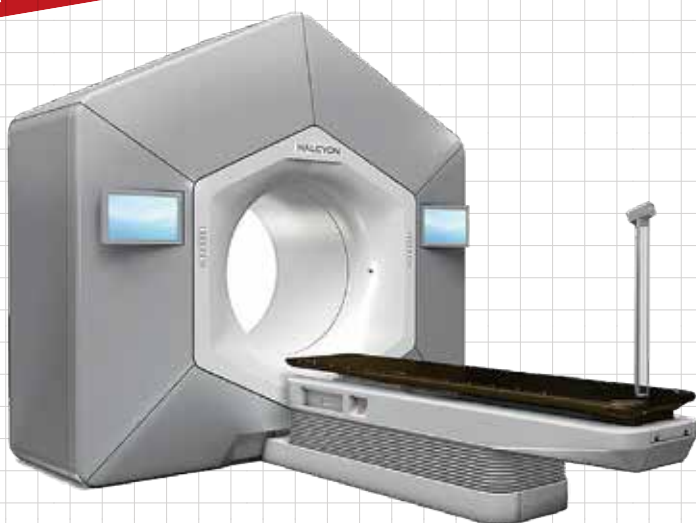
最後に、ただ機械が新しいだけでは、高精度な放射線治療はできません。当院では、従事するスタッフも日々研鑽を行い、専門知識を有した放射線治療専門医をはじめ、医学物理士、がん放射線療法認定看護師、放射線治療専門放射線技師が協力し、患者さんに高精度放射線治療を提供いたしております。

ここを
見て!!

那覇市立病院が誇る 放射線治療関連設備のご紹介

放射線治療装置 Halcyon (varian)

2022年4月稼働予定



当院に導入されます新放射線治療装置は、米国バリアン社のHalcyon(ハルシオン)という装置です。この装置は、**沖縄県では初めて導入されます**。正常臓器への副作用を少なくし、病巣へ放射線を集中することが可能な高精度放射線治療の強度変調(回転)放射線治療(IMRT/VMAT)を短時間で快適に受けることができます。また、ピンポイントに病巣を狙う定位放射線治療も行うことができます。機械の衝突の恐怖感や装置の圧迫感、長時間の治療でストレスを感じる方にも安心して受けていただける放射線治療装置になります。

このHalcyonの詳細な内容は、病院ホームページに掲載される予定です。

光学体表面監視システム Align RT (Vision RT)

Halcyon(ハルシオン)と同時にVision RT社のAlign RT(アラインRT)という皮膚の表面で位置合わせや監視を行うシステムも沖縄県で初めて導入します。このシステムを導入することで、短時間で高精度に効率よく治療を行うことができます。この装置による被ばくはありませんし、体表面に印を付けずに治療を受けることができます(一部例外あり)。



写真はイメージです。赤丸がAlign RTのカメラになります。

令和3年12月11日(土)に、がん相談員実務研修会をオンラインで開催しました。

当研修会はがん患者さんやご家族がどの療養場所においても、よりよい相談支援が受けられるよう、がん相談の質の均てん化を目指し、がん診療連携拠点病院を中心に毎年開催しています。今年度第1回は琉球大学病院、第2回は沖縄県立中部病院で開催されました。

第3回は「意思決定支援のプロセスを読み解く～認知症や精神疾患をもつ患者さんに対して～」をテーマに、国立がん研究センター東病院 小川朝生先生にご講義いただきました。

当日は、医師、看護師、ソーシャルワーカー、心理士、管理栄養士など幅広い職種の方にご参加いただき、意思決定支援に関する5つガイドラインの関連性や意思決定支援のプロセスから、具体的な対応について質問や事例を交えながら学ぶことが出来ました。

意思決定支援と聞くと難しく考えたり、まだ早いと思う方も少なくないと思いますが、意思決定支援に早いも遅いもなく、認知症や精神疾患を患っているから意思決定ができないということもありません。ただ、その方に合わせた伝え方や説明の仕方を工夫する(本人にとって身近で分かりやすい言葉、人によっては図や絵を活用する)、安心して落ち着ける時間や場所、話しやすい雰囲気などの環境を整えることで意思表示は十分に可能となります。また、本人の言葉だけでなく、その時の表情やしぐさなどの非言語的な

令和3年

第3回

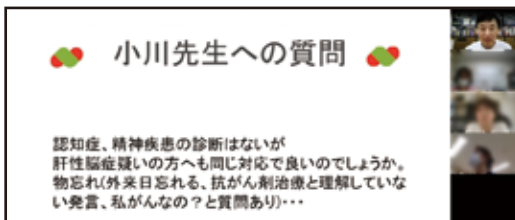
がん相談員実務者研修会報告

患者サポートセンター がん相談支援センター
医療ソーシャルワーカー

仲宗根 恵美



オンラインでの研修会受講の様子



研修会での先生への質問

反応も大事な情報になります。

日頃、ついつい自分が知りたいことだけを聞いてしまいがちになりますが、こちらが聞きたいことだけを聞くのではなく、相手が伝えたいことを聴くように心がけ、本人の言葉を多くキャッチできるようにコミュニケーションを重ねること、本人から語られた言葉をキャッチしたときには、それを一人で抱え込まず、チームで共有する(その時の様子や表情などを含めて記録に残し、話し合う)ことも大切です。患者さんにとっての最善を考える時、多職種でのコミュニケーション・連携が不可欠です。人の考えや思いはその時の体や心の状況、環境などにより変化します。一度話したら終わりではなく、継続して関わり、その都度患者さんの思いを聴き、話し合いを重ねることが、意思決定の支援につながっていきます。

患者さんやご家族が安心し、その人らしい治療・療養生活を送れるよう、思いを受け止めて一緒に考え、その方ご自身で意思決定していける支援が出来るよう、今後もスキルアップ向上に努めていきます。

がん相談支援センターは、患者さんやご家族、地域の方々など院内・院外問わず、がんに関するさまざまな相談に対応しています。お気軽にお問合せください。

※一般的ながんに関する情報はお伝えできませんが、個人の診断や治療についての医学的な判断は出来ません。



問い合わせ先

がん相談支援センター

【相談時間】平日 9:00 ~ 17:00(土日・祝日・年末年始を除く)
【料金】無料 【電話】代表 098-884-5111(内線 283)

がん相談員へ
相談希望の旨
お伝え下さい。

グリーンリボンキャンペーン

患者サポートセンター・雪見だいふく



「臓器移植をしろ」院内で講演会を行いました。



院内入口では、ハーティーちゃんお出迎えとともに、臓器移植普及キャンペーン動画を放映しました。



2021年10月14日～16日の3日間、グリーンライトアップを行いました。

していくことが課題と責務と考えています。また普段から院内外での『顔の見える関係性と連携』を構築していくことが大切です。『命をつなげる』患者家族の思いを大事にして、私たち臓器移植提供に関わる医療者が『心をつなぐ』活動として、グリーンリボンキャンペーンを今後も行っていきたいと思えます。

我が国は1997年10月16日に「臓器の移植に関する法律」が制定され、脳死後の臓器提供も可能となりました。それに伴い、毎年10月は「臓器移植普及推進月間（グリーンリボンキャンペーン）」として、広く全国において臓器移植への理解が進むように普及啓発の取り組みが行っています。臓器移植法が施行された10月16日は、家族や大切な人と「移植」のこと、「いのち」

のことを話し合い、お互いの臓器移植に関する意思を確認する記念日『グリーンリボンデー』となっています。今回、当院も臓器提供が可能な施設として、移植医療の希望の光を絶やすことなく確実につなげることに、いのちや移植医療について考える取り組みを行いました。活動内容として、臓器移植に関する講演会のほか、グリーンライトアップを10月14～16日の3日間おこな

い、正面玄関とモノレール連絡口を移植医療のシンボルカラーである緑色にライトアップしました。県内でのライトアップ実施は2018年以來で、医療機関では県内初の試みでした。短い準備期間でしたが、院内臓器移植コーディネーターを中心に事務局の協力も有り、迅速な連携で点灯式を迎えることができました。

臓器移植は、臓器提供者と御家族の尊い意思と、関係者はもとより広く社会の理解と支援があつて成り立つ医療です。院内臓器移植コーディネーターとして、あらゆる状況や場面に対応出来るように院内への啓蒙活動に力をいれるとともに、臓器提供される患者及び家族に対し、常に真摯に向き合い、寄り添い、そして最後まで意思決定を支援する取り組みを行ってきました。今後も、様々な情勢下で対応できる臓器移植チームを維持



～琉球料理でちゃーがんじゅう～

管理栄養士 片岡 朋美

見た目からほとんど形を変えることなく再現しました。麺をすすることができなくても、誤嚥の問題を払拭した形態にする為にとても頭を悩ませました。口の中で一塊になり、飲み込みやすい長さの平麺、家庭でも実践できるものとして、餃子の皮にたどり着きました。レンジや片栗粉なども使用し家庭で簡単に実践できるようなレシピにしています。



材料 (1人分)

沖縄そば

- 餃子の皮……………4枚
- 三枚肉……………50g
- 紅白かまぼこ風
 - 赤紅+水……………数滴+6ml
 - 調整豆乳……………40ml
- ネギ……………3g
- そばだし汁
 - かつお出汁……………400ml
 - 醤油……………大さじ2
 - 調理酒……………大さじ2
 - 鶏ガラスープの素…大さじ1
- 片栗粉……………大さじ1

シブイ ンブシー 冬瓜の煮物

- 冬瓜……………100g
- 人参……………50g
- 小松菜(葉)………30g
- 片栗粉……………2.5g

ターンムディンガク 田芋田楽

- 田芋……………60g
- 甜菜糖(液体)…12g

使用したゲル化剤
「ミキサーゲル」
加熱せずにムース
ゼリーができます。



作り方

沖縄そば

- 1 かつお出汁と調味料を入れて沸騰してきたら三枚肉を入れる。※この出汁はミキサーをかける際の出汁として活用したり、冬瓜の煮物を作る時にも使用する。
- 2 三枚肉と出汁(大さじ1)とゲル化剤1gを入れてフードプロセッサーにかける。小さめのタッパーに移し冷蔵庫に入れて冷やし固める。
- 3 (紅白かまぼこ上層):赤紅(数滴)と水(50ml)をレンジで600w40秒加熱する。ゲル化剤1gを入れて、バットに平たく伸ばし冷蔵庫に入れて固める。
- 4 (紅白かまぼこ下層):豆乳をレンジ600wで40秒加熱。ゲル化剤2gを入れ③のタッパーに重ねて流し込む。
- 5 ネギをレンジで600w1分加熱する。粗熱をとり、出汁(大さじ1)とゲル化剤1gを入れ、フードプロセッサーにかける。小さめのタッパーに移し冷蔵庫に入れて冷やし固める。
- 6 餃子の皮を1枚5等分に切る。沸騰したお湯に入れて16分茹でる。
- 7 水(15ml)と片栗粉(大さじ1)で水溶き片栗粉を作り、煮立たせた出汁140mlに加えてとろみをつける。
- 8 器に麺に見立てた餃子の皮を入れ、⑦の出汁をそそぐ。お好みの大きさに切った三枚肉、紅白かまぼこ風、ネギを盛り付けて、出来上がり。

冬瓜の煮物

- 1 冬瓜、人参は皮を剥いて出汁(100ml)+水(浸かる位調節する)を入れて圧力鍋10分加熱する。
- 2 ①に出汁(各大さじ1)とゲル化剤1gを入れて、フードプロセッサーにかける。小さめのタッパーに移し冷蔵庫に入れて冷やし固める。
- 3 小松菜の葉をレンジで600w1分加熱する。粗熱をとり、出汁(大さじ1)、ゲル化剤1gを入れ、フードプロセッサーにかける。小さめのタッパーに移し冷蔵庫に入れて冷やし固める。
- 4 冬瓜は一口大に切って小松菜は3cmの長さにして表面繊維状に包丁で線を入れる。
- 5 出汁100mlと水溶き片栗粉(2.5g)であんかけを作る。冷めてから、冬瓜、人参、小松菜盛り付けしあんをかける。

田芋田楽

- 1 田芋は皮を剥いて水から入れ、10分茹でる。
- 2 茹で上がった田芋に水大さじ3+甜菜糖大さじ1を加え、滑らかになるまで押しつぶしながらかき混ぜる。
- 3 ②を冷蔵庫で冷やし、皿に盛り付けたら出来上がり。

当院は病診連携を一層推進するために登録医制を設けております。オープンシステムも備えています。

お問い合わせは地域医療連携室まで! TEL.098-884-5134(直通) FAX.098-886-5502

島袋整形外科



院長 島袋 博之

当院は、整形外科のかかりつけ医をめざし、診断、治療にあたっており、当院で可能な患者さんに対しては、当院で診断、治療を行い、必要ならば那覇市立病院などへ紹介し検査、治療を行っていただいています。患者さんにとって「良い医療を迅速に」がモットーです。

診療科目(整形外科)

- ・腰椎症(椎間板ヘルニア、圧迫骨折、脊柱間狭窄症)
- ・頸椎症(首筋の痛み、肩こり)
- ・変形性膝関節症(膝が痛い、腫れている、曲げ伸ばしが辛い、階段が辛い)
- ・肩関節症(肩周囲が痛い、腕が上がりにくい)
- ・スポーツ外傷(転倒による骨折、捻挫、打撲)
- ・装具相談
- ・骨粗鬆症検査、治療
- ・膝、肩の関節の痛み

リハビリテーション

- ・理学療法士による運動療法
- ・外傷によって障害された運動機能回復へ向けたリハビリ実施・指導
- ・手術後の運動機能回復・訓練
- ・温熱療法
- ・電気療法

受付時間/曜日	月	火	水	木	金	土	日
午前08:30~12:00	○	○	○	○	○	○	/
午後13:30~17:00	○	○	○	/	○	/	/

休診日:日曜日・祝祭日・木曜日/土曜日は午後休診

住所/那覇市真嘉比3丁目6番14号(旧93-2番地)

TEL.098-882-4322

みやら内科クリニック



院長 宮良 忠

このたび那覇市真嘉比の地に「みやら内科クリニック」を開院しました。「内科」という言葉をご存知の方は多いと思いますが、実は内科という分野は幅広く、診断に苦慮することが多い診療科です。日々の診療の中で「ああでもナイカ?こうでもナイカ?」と悩んだりすることが多いために「ナイカ(内科)」と揶揄されたりします。健康を通じて皆様の豊かな人生、安心できる暮らしを支えることができるように鋭意努力いたします。患者様、ご家族様と十分な対話をとり、皆さまの意思決定をサポートすることを大切にしたいと考えています。超高齢化社会となった現在は、高齢者における医療は複雑で診断・治療に難渋することも多く、時間を要することもあるかと思えます。そのような場面でも、考え悩むことが得意な「ナイカ医」として患者様にとって最良と思える医療を提供できるように、日進月歩で変化している医学に遅れることなく自己研鑽に努めます。

診療科目

- 一般内科外来
様々な生活習慣病(高血圧、糖尿病、高脂血症など)の予防・治療を中心に、症状の早期発見、早期治療に力をいれています。その他インフルエンザや風邪、消化器系や循環器系などの一般内科の諸症状にも対応いたします。
- リウマチ、膠原病
皮膚・節・関節などの組織に炎症・変性が起こる全身性の自己免疫疾患である「関節リウマチ」や「膠原病」の診療を行います。日常生活が少しでも過ごしやすくなるよう、患者様に合わせた処置をいたします。詳細な問診・身体診察や多岐にわたる検査を行い、慎重に対応いたします。

- 人工透析
週2、3回の血液透析を快適に受けて頂けるようベッド間隔をゆったりとり、採光たっぷりの明るい透析室です。1透析毎にベッドのシーツ交換を行い、気持ちよく透析を受けて頂けるよう療養環境を提供しております。全てのベッドにオンラインHDF装置を備えていますので、どなたでもオンラインHDF(血液ろ過透析)を受けることが可能です。透析患者様の長期合併症予防が期待できます。新型コロナウイルス感染対策としてクリニックにPCR検査装置を導入し、迅速な対応が可能となりました。透析前の待ち時間や透析後の休憩コーナーとしてラウンジもございます。ナースステーションも室内にございますので、透析中もきめ細やかな対応が可能です。送迎にも対応しております。詳しくはお問い合わせください。



受付時間/曜日	月	火	水	木	金	土	日
午前09:00~12:00	○	○	○	○	○	○	/
午後14:00~17:00	○	○	○	/	○	/	/

休診日:日曜日・祝祭日、木・土(午後)、年末年始

住所/沖縄県那覇市真嘉比1-7-1

TEL.098-886-5858

透析室直通 TEL.098-894-2646

那覇市立病院ホームページの不具合について

年始よりシステムの不具合でホームページの閲覧が出来ない状態が続いております。ご利用の皆さまにはご迷惑をおかけしており、大変申し訳ございません。

3月25日より、ホームページ簡易版を公開しており、お知らせ事項を順次掲載しております。

ホームページが全面復旧するまでの間、受診に関する事やその他ご不明な点につきましては、直接お電話でお問い合わせ下さいますようお願いいたします。

【お問合せ先】 那覇市立病院 TEL.098-884-5111 (代表)



那覇市立病院HP

● 健診センターからのお知らせ ●

健診センターでは**令和4年度(2022年4月～)**の予約受付を開始しております。人間ドック、脳ドック、協会けんぽ健診、特定健診など、ご利用いただけます。

電話での
ご予約

フリーダイヤル
0120-784-155 FAX 098-884-5109
(受付時間：午前9時30分～午後4時 祝祭日を除く)

健診センター
窓口でのご予約

※保険証をご持参ください。
(午前11時～午後4時 祝祭日を除く)

※ただいまホームページの不具合により、インターネットでご予約をお受け出来ず、大変ご迷惑をおかけしております。復旧までの間、ご予約やその他のお問合せにつきましては、お電話もしくはFAXにてお受けいたします。ご不便をおかけし、申し訳ありませんが、ご協力よろしくお願いいたします。

健診ミニ知識 特定保健指導

特定保健指導とは、生活習慣病のリスクがある対象者に対し、生活習慣の振り返りや改善のため専門職が個別に介入し支援する制度です。

健康的な生活に自ら改善できるよう、様々な働きかけやアドバイスを行います。

また、健診結果に基づき、「動機づけ支援」「積極的支援」の2つの支援方法があり、個人に寄り添った支援となっています。

支援終了時には対象者自身で健康に関するセルフケアが継続できるようサポートします。

